

松尾芭蕉ゆかりの「田原の滝」の再生

山梨県富士・東部建設事務所 ○藤森克也 小林功樹 藤本雅樹

1 はじめに

田原の滝は山梨県都留市の代表的な景勝地である。おおよそ8,000年前に富士山の活発な噴火活動により噴出した多量の溶岩が固まって冷えて、縦方向に多角形の柱が林立したような柱状節理が形成され、この溶岩を長年にわたって桂川が浸食して趣のある渓谷美をつくりだしている。しぶきをあげて水が流れ落ちる様子から白根の滝、白滝とも呼ばれており、古くからその溪流美が愛でられてきた。江戸時代の俳聖松尾芭蕉もここを訪れて俳句を詠んでいる。田原の滝はかつて上下2段の滝から成り、下段の滝は直下20mほどもあり、水量も豊富で滝の響きは遠方まで聞こえたといわれたが、明治31年に両岸が崩落し1段の滝となり、大正12年の関東大震災以降は崩壊が進んで滝の位置が30mほど後退した。昭和33年に周辺の人家や公共施設の安全を確保するために高さ10mの砂防堰堤が設置されたが、むき出しのコンクリートにより趣のある溪流景観は失われていた。砂防設備の老朽化を契機にして、渓岸浸食の防止とともにかつての美しい滝を復活するために砂防事業を実施しており、本稿では溪流の再生事業と松尾芭蕉との関わりを活用した地域振興の概要について報告する。

2 田原の滝と松尾芭蕉

松尾芭蕉は江戸深川の小名木川が墨田川に流入する合流部の右岸地に芭蕉庵を構えていた。一方、甲斐国谷村藩秋元家は小名木川沿いに合流点から約900m離れた左岸側の土地や墨田川の対岸の土地に江戸屋敷を構えており、谷村藩士は自然に芭蕉の門下生になったものと考えられる。天和二年の暮れの江戸の大火に見舞われて、芭蕉は隠棲していた庵を焼き出され、弟子である秋元家の国家老高山傳右衛門（俳名麁埜）に招かれ谷村に流寓している。滞在中は「桃林軒」と名付けた高山家の屋敷の離れて過ごし、この地で多くの名句を残している。田原の滝にも訪れており「勢いあり氷消えては瀧津魚」と句を詠んでいる。旅に明け暮れた芭蕉にとって、谷村で過ごした約五ヶ月間は彼の生涯の中で最も長い逗留であり、その後の俳諧にも影響を与えたと言われている。

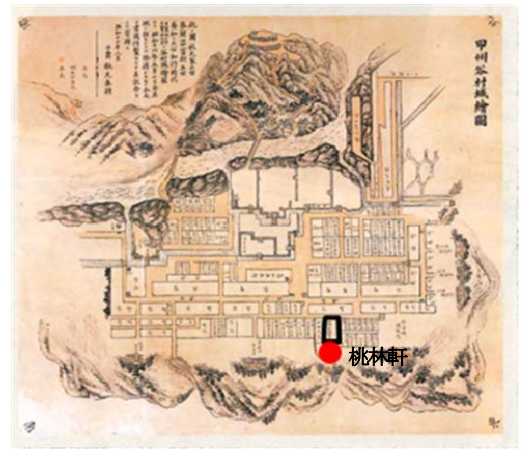


図1 甲州谷村城絵図

3 田原の滝の溪流再生

老朽化した砂防設備の改良、渓岸崩壊の防止とともに劣悪な溪流環境の改善を図り、かつての美しい滝を復活するために、平成9～21年度に補助砂防事業により田原の滝の溪流再生を実施した。総事業費は570百万円であり、概要は次のとおりである。

3.1 施設改修および渓岸浸食防止

老朽化した砂防設備を補強するために、本堰堤および副堰堤の下流側にそれぞれ腹付けコンクリートを約2mの厚さで施工するとともに、陥没が生じていた既設水叩きを撤去して新たに厚さ3mで水叩きコンクリートを設置した。また、溶岩の縦横浸食を防止するために、堰堤下流の渓岸に側壁コンクリートを施工するとともに、堰堤上流の1段目の滝の周囲にも側壁コンクリートを施工した。

3.2 景観形成

松尾芭蕉が俳句を詠んだ趣のある溪流美を復活させるため、修景工事を実施して、溶岩の柱状節理景観と違和感を感じさせない美しい溪流景観を形成した。景観デザイン設計にあたっては、田原の滝周辺の実物の溶岩の柱状節理形状にあわせた縮尺1/50のスタディモデルを作成し、岩の形状、肌、色など詳細な景観イメージをつくりだした。このモデルを基に、既設堰堤や下流側壁には擬岩パネルを据え付けるパネル工法を、また上流側壁には現地にて擬岩を造形していくハンドカービング工法を採用して施工した。忠実な柱状節理を造出するために、芸術性を備えた作業員たちがモルタルを塗ったり、削り込んだり、顔料を吹き付けたりして、風雨にさらされた柱状節理の風合いを出すようにした。



図2 再生された田原の滝

3.3 砂防学習公園

滝を見学する際に小休止をとるとともに、訪れる人が滝の変遷や溪流再生を学べて砂防事業への理解が深まるように、滝の近くに砂防学習公園を整備した。公園は周辺の景観と調和のとれたデザインにするとともに、植栽やベンチ、解説板を設置して、大勢の人々が利用できる空間を創出している。

4 田原の滝を活用した地域振興

田原の滝の周辺には、奇岩が続く秘境の蒼竜峡、平成の名水百選に選ばれた十日市場夏狩湧水群などの名所が近接しているとともに、都留文科大学、都留市文化ホール、都留市総合運動公園などの公共施設も位置している。また、滝は国道139号に隣接しており、中央自動車道都留IC、富士急行十日市場駅などにも近いため、交通アクセスにも優れており、多くの人が集まる場としてのポテンシャルが高い。

観光振興を考える際、甦った溪流景観だけを資源とするのでは、資源そのものの優劣に集客力が大きく左右されることになるため、田原の滝では他の地域との「差別化」が必要になる。滝に関係がある都留市固有の地域資源には松尾芭蕉との関わりがあり、これに工夫を凝らして演出することにより観光振興や文化振興の発展に繋がると考え、都留市や富士急行と連携を進めた。具体的な工夫は次のとおりである。

4.1 砂防学習公園の活用

砂防学習公園の中に、都留市と松尾芭蕉の関わりなどを学べて地域学習ができるとともに、都留市の観光ネットワークの拠点としても活用されるように、松尾芭蕉や田原の滝で五言律詩を詠んだ藤堂良道に関する解説板を設置したり、目立たない場所に建っていた芭蕉の句碑を移設した。また、公園のシンボルとして松尾芭蕉の銅像を設置して、記念写真スポットとするなど集客力を高める創意工夫を凝らした。

4.2 パンフレットの作成

全国的にも珍しい滝の再生を広報するためのパンフレットを作成するとともに、松尾芭蕉ゆかりの場所を紹介するパンフレットを作成した。松尾芭蕉に関するパンフレットは、地元関係者の協力を得て、訪れた人がこれを手にして観光巡りを楽しめるように工夫した

4.3 イベントの活用

都留市では富士急行やJRと共同で企画する「富士急遊～YOUハイク」「芭蕉句碑めぐりスタンプハイク」「駅からハイキング」などが開催されており、大勢の人が参加して、盛り上がりを見せている。このツアー経路には田原の滝が立寄場所に含まれており、参加者は美しい溪流景観を楽しむとともに、休憩をとりながら滝の歴史や文化を学んでいる。県ではこれらのイベントに積極的に参加して、担当者が自ら解説員となり情報を発信するとともに、参加者からの質問や意見を聞くことで双方向のコミュニケーションづくりを図っている。



写真1 駅からハイキングの参加者



図3 芭蕉ゆかりの地を紹介するパンフレット

5 おわりに

美しい景観が再生した田原の滝は、都留市の代表的な景勝地として観光パンフレットに掲載されるとともに、様々なホームページで紹介されている。また、平成17年には都留市指定名勝に指定されるとともに、今年2月には市民が選出する「平成の谷村八景」のひとつに選定されている。

田原の滝の再生は、失われた溪流美を復活させて地元が誇る景勝地に生まれ変わるとともに、都留市と松尾芭蕉との関わりを学ぶうえでも重要な場所となり、観光振興や環境意識向上のほか、地域文化の振興にも大きく貢献することができている。

参考文献

楠元六男：我を絵に看る 新典社新書

高取堅二：芭蕉谷村藩流寓余聞 なまよみ出版